

1班 広島平和記念式典参加事業

1班グループメンバー

- ・豊科南中学校 竹内 皇介
- ・明科中学校 請地 秀亮
- ・穂高西中学校 縣 小太郎
- ・三郷中学校 石原 優
- ・堀金中学校 北村 心夢

松本大学 平和創造研究会 林 央葵

グループの学習テーマ

『アメリカから見た原爆投下』

- ・グループで設定した学習の着眼点
 - ・なぜ広島と長崎に投下されたのか。
 - ・アメリカでの原爆投下に対する認識。

見学

- ・ 平和記念資料館では、各々が見たい展示物を自由に見学しました。写真で見る展示物と実際に見る展示物の違いを感じた。（資料1）
- ・ 原爆ドーム見学では、今の広島とはかけ離れた、崩れた壁やむき出しの鉄骨を目にして、戦争の悲惨さを痛感した。（資料2）
- ・ 厳島神社では、資料館の緊張感のある空気とは一変して、広島歴史や自然を楽しむことができた。（資料3）

資料



資料 1 当時の被爆した
制服



資料 2 原爆ドーム



資料 3 厳島神社の大鳥居

学習の着眼点

①なぜ広島と長崎に投下されたか。

▶ 広島

- ・捕虜施設がないと考えられていた。
- ・日本の軍隊や工場などがある都市。
- ・空襲による被害を受けていなくて、原爆の力や効果を見ることができたため。
- ・原爆の投下により、日本の国民が戦争を続ける意志をなくさせるような都市。

▶ 長崎

- ・空襲の被害が少なく原爆の威力を見ることができたため。
- ・造船所や兵器工場も多くあったことも理由の一つである。
- ・本来なら小倉市（現在の福岡県北九州市小倉北区）が本当の投下予定地だったが視界不良のため変更された。

②アメリカでの原爆投下に対する認識。

▶ 賛成側の意見

アメリカで原爆投下に対して正しかったと思う人は、1945年時点で85%でした。どうして正しかったかアンケートを取ると、このまま戦争を続けていたら日米両方にとって膨大な損害が出ていた。そのため原子爆弾を使ったのは正しかったと回答した人がほとんどだった。

しかし、2015年時点では賛成派は56%まで減っている。中でも18～29歳の若者は、47%と過半数を割っている。

▶ 反対側の意見

アメリカでの、原爆に対する反対派の人は、1945年時点では「原爆が落とされて戦争が終わった」という教育がされてしまったことがあり、15%と低い数字だったが、終戦から約80年たった現在の調査によると約50%まで上がっている。

特に18～24歳の若い世代たちは「日本に謝罪すべき」という人が52%まで増えた。時代が進むにつれ「謝罪すべき」という考えが広がっていったのが分かる。

この事業に参加して新たに気付いたこと

- ・広島で起こった原爆のことは日本だけで伝えられてると思っていましたが世界各国の方々にも伝えられており、平和式典や原爆ドームに訪れる外国人もいること。
- ・原爆を落とされたとき、人々の生活は一瞬にして吹き飛ばされ、なにも残っていないと思っていましたが、像や、灯などを利用して後世に伝えていること

感想（グループ全員）

■ 広島で起きてしまった悲劇を改めて理解し、世界中に知ってもらうために多くの人たちに共有していきたい。

（豊科南中学校 竹内 皇介）

■ 平和記念式典参加事業に参加してみて今までの広島に対する認識などがかなり変わりました。たくさんの人に広島のことを伝えていきたいです。

（明科中学校 請地 秀亮）

■ 僕は広島に行って今まで知らなかった事実や被爆者のお話を聞いてとても良い経験になりました。これから友達や家族に広島で起きた事実をたくさん話して二度とあの8月6日のようなことが起きないように願いたいと思います。携わってくださった皆様本当にありがとうございました。

（穂高西中学校 縣 小太郎）

感想 2

■原爆のことを世界各国や現代の人に伝え、忘れないようにしていると
思いました。

(三郷中学校 石原 優)

■原爆ドームや資料館の見学で実際の建築物や展示物を見て、より戦争
の悲惨さを痛感しました。今回体験したことを忘れないように胸に刻ん
で、まわりに発信していきたいと思いました。

(堀金中学校 北村 心夢)

■初めて平和記念式典に参列させていただき、平和について考えなおす
機会になりました。この経験を活かして少しでも多くの方に広島、そし
て長崎で起こった悲惨な出来事を後世に伝えていき歴史を繰り返さない
ようにしたいと思いました。

(松本大学 平和創造研究会 林 央葵)